● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

東京八王子西ロータリークラブ会長賞

髙瀬　直子（たかせ　なおこ） 館小中 ３年生

作品名：杜子春から学んだこと

図　書：齋藤孝のイッキによめる！名作選小学3年生（杜子春）

芥川龍之介の「杜子春」という話を読みました。どうしてこの話を読もうと思ったかというと、芥川龍之介という名前は聞いたことがあったけれど、作品は読んだことがなかったので、読んでみようと思ったのです。

この話は、杜子春という中国の若者が、人間にあいそをつかし、鉄冠子という仙人の弟子になって、仙人になるために、きびしいしゅぎょうをする話です。

読み始めたときは、知らない言葉がたくさん出てきて、読むのが少したいへんでしたが、読み進めるうちに、だんだん話が分かってきて、おもしろくなりました。次がどうなるのかが気になって、ハラハラしながら、どんどん読みました。

杜子春が鉄冠子に言われた通りに夕日の下に立って、自分のかげの頭のところを夜中にほったら、本当に黄金がうまっているのがおもしろかったです。でも、杜子春はせっかくお金持ちになったのに、ぜいたくをしすぎてお金を全部使ってしまったのが、もったいないと思いました。二回目のときは、むねに当たるところを夜中にほったら、また黄金がたくさん出てきたのがふしぎでした。鉄冠子はとても親切だと思いました。それなのに、杜子春はまたお金を全部使ってしまったので、わたしはとてもがっかりしました。三回目に、おなかのところをほるように言われたので、四回目もあるのかな、さい後はどうなってしまうのかなと思いました。でも、杜子春は、三回目のときに「もうお金はいらない」と言っていました。どうするのかと思ったら、自分も仙人になりたいと考え、鉄冠子に弟子にしてくださいとたのんだのです。わたしはすごいと思いました。わたしだったら、仙人になれるか自信がないので、たのまないと思います。もし、わたしが杜子春だったら、一回目にお金持ちになったら、そのお金を大切にしてくらしたいと思います。

杜子春は、仙人になるためのしゅぎょうで、とらや大ヘビが出てきても、地ごくですごくたくさんいたい目にあっても、大声を出しませんでした。でも、お父さんとお母さんの顔をした馬がひどい目にあわされたときは、なみだを落としながら「お

母さん」とさけんでしまいました。もしわたしが杜子春だったら、わたしも同じようにさけんでしまうと思います。杜子春は仙人になれなかったけれど、私はそれでよかったと思います。

　この話の一番良かったと思うところは、杜子春が自分のことだけを考えて、お父さんやお母さんのことを見すてるということをしなかったところです。杜子春は、はじめはお金持ちに、次に仙人になりたいと思ったけれど、さい後は正直な人間になりたいと言ったので、わたしはほっとしました。わたしも杜子春のように自分のことだけではなく他の人のことも考えられるようになりたいです。